

「らしさ」輝く附属小

第31号 令和8年 1月23日(金) 校長 森内 秀学



冬を探そう

生活科の学習では、その時期ならではのものを見つけ、季節の移り変わりを感じたり、楽しんだりする単元があります。低学年を受け持っていた頃、その単元が大好きでした。

さて、すごく寒くなった冬の附属小には、どんな楽しいものがあるのでしょうか。



ハッサク (ハッサク)

左は、北斗の丘に植えられたハッサク (ハッサク)。元は、赤い花びらの山茶花 (サザンカ) が植えてありました。毎年毛虫がたくさんつくため、安全のために抜き、代わりに小さな苗を10年前に植えました。今では、たくさんの実を付けるほど成長したので、給食の食材としても使われています。

水仙 (スイセン)

冬の花と言えば、水仙 (スイセン) を思い浮かべる方も多いのではないでしょうか。本校にも、滑り台の根元など、あちらこちらに生えています (右)。特に世話をされず、草刈りの時にはおそらく根元まで刈り取られているのに、毎年冬にはきれいな花を咲かせています。

そう考えると、植物は、可憐で健気でたくましいですね。



長葉羊蹄 (ナガバギシギシ)

柔らかい葉を束ねて握ると「ギシギシ」と音が鳴るこの植物は、運動場の奥の壁際にたくさん生えています (左)。暑くても寒くてもたくましく育つこの植物は、きれいな花が咲くわけでもないで見過ごされがちですが、実は

ヤギの大好物です (右)。葉を持ってヤギに近付くと、フェンスを利用して立ち上がり、大喜びで食べます。



冬は、じっと息をひそめ、春が来るのをひたすら待つ静かなイメージもありますが、よく見ると、命の息吹がそこかしこに感じられます。お子さんと一緒に探してみませんか。